

平成22年度事業計画の概要

はじめに

本学では、平成20年度からスタートした中期マスタープランに基づき平成28年に迎える創立90周年を展望して記念事業を立案、第一次キャンパス総合整備及び教育改革、学部・学科の増設、履修コースの一部刷新を実施してきました。

平成22年3月30日には新7号館（教育・研究棟）が竣工し、本学の教育・研究環境の向上が図られます。

引き続き、平成22年度は、仏教学部・表現学部を設置、また、施設面においては新3号館（教育・研究棟）の建設、さらには、中期マスタープランで策定された大正大学の社会的責任として表明したTSR（大正大学ソーシャル・レスポンシビリティ）をマネジメント化し、学校運営の改革を継続的に進めてまいります。

また、大正大学の新しい教育ビジョン「4つの人となる」（本学で学んだ学生が、自分が社会的存在であることを自覚し、社会やコミュニティで起こるさまざまな問題を発見し、ともに解決する知識と能力を身につけ、実践のために努力する人間になる）を実現し、大正大学が社会から期待と信頼を得られる大学となるための、飛躍の1年にしたいと考えています。

なお、平成22年度に予定されている事業概要は以下のとおりです。

1. 学部・学科の再編

- ・仏教学部の設置。仏教学科を人間学部から独立させ、15年ぶりに仏教学部として復活設置いたします。
- ・文学部の再編。表現文化学科を再編し、日本語・日本文学、哲学・宗教、カルチュラルスタディーズを人文学科とし、英語コミュニケーション、クリエイティブライティング、放送・映像文化は表現学部として文学部から独立した新学部とします。

なお、歴史文化学科は名称変更で歴史学科となります。

2. 教学

- ① 学士力向上のための支援業務および学生の教育環境充実ための取組み、さらには、教員の研究活動支援、出版会、留学生支援などを統括する部署として新たに教学支援部を設置いたしました。
特に、将来学生の学習支援、キャリア形成のために有効となるポートフ

オリオを実現するために、入学から卒業までのさまざまなデータを集積し、調査・分析と学生の日々の学習記録や各種調査を連動させ、学生の指導・人材育成が効果的に行えるように学生情報一元化を行います。

- ②表現学部では初年次教育の実践的試みとして、1年生全員で春学期特別ワークショップを実施し、その成果を9月の集中講義期間に発表するイベント<光と言葉のフェスティバル（仮称）>を計画しております。これは、新表現学部の初年次教育として導入するもので、共同制作作業、発表によってコミュニケーション能力や学習意欲の向上を計っていきます。
- ③平成21年度に、初年次教育の「大学入門3（キャリア教育）」として実施した、自己発見レポートを段階的に発展させるために、2年次において自己発見プログレスレポートを実施いたします。
- ④AO入試合格者に対する入試準備学習における学習支援体制の改善を図り、学力維持及び学習意欲の向上に努めます。
- ⑤平成21年度に竣工した新7号館1階のプレゼンテーションカフェおよび2階のラーニング・コモンズ（自律型自習スペース）の活用と共に、新たな学習支援システムの構築を目指します。

3. 研究

- ①学内の競争的研究費である「学術研究助成金」に教育プログラム研究の枠を新たに設け、教育方法改善に向けた研究に対して積極的に支援することになりました。
- ②平成20年度に設置した研究支援室を教学支援部に組織変更した上で研究支援課とし、研究者への支援体制向上を図ります。

4. 学生支援

- ①平成22年度から、大学に隣接するクリニックの院長と校医の契約を締結し、医師の判断による学生の保健活動の充実を図ります。
- ②新6号館（クラブ練習棟）が6月に竣工し、空手部・剣道部・柔道部・カバディ部の練習環境が格段に向上いたします。

5. 社会連携・貢献

- ・地元で開催されている「江戸のはな・さくらそうフェア」に協賛し、大

学施設を会場として提供し、地域住民との交流の機会といたします。

6. 施設・環境整備

- ①中期マスタープラン及び創立90周年特別事業である新3号館（教育・研究棟）建築に着手し、主に仏教学部、文学部歴史学科、表現学部の教育・研究活動環境の向上を図ります。
- ②IT環境の整備の充実を図る為に、5号館1階にMacルームを設置、また、13号館4階のPC教室のパソコンの入れ替えを実施いたします。

7. 学生募集・入試

- ①本年度入試実績を上回る受験生確保を目指して、より充実した学生募集活動に取り組めます。
- ②オープンキャンパスをはじめとした大学訪問者に対して、今まで以上のきめ細かい情報の提供ができるように務めます。

8. 広報活動

- ・学生・保護者・受験生をはじめとした大学のステークホルダーに対して、大学が発信する広報を効果的に展開できるように、内容の精査に務めるとともに、メリハリのある広報活動を行います。

9. 勧募事業

- ・平成28年の創立90周年に向けて、平成22年度から3年計画で90周年特別事業のための勧募事業を行います。
90周年勧募で募った寄付金をもとに、新3号館（教育・研究棟）及び新4号館（仏教・歴史博物館棟）の建築を実施する予定であります。

10. 事務運営・財務

- ①TSR（大正大学ソーシャル・レスポンスビリティ）マネジメントシステムを導入します。全学を対象とすべきところですが、当面は事務職員が推進役として先行して取り組みます。このために各部署において研修に務めるとともに、適宜全体研修や短期集中研修を実施いたします。
- ②セクシャル・ハラスメント防止委員会をハラスメント防止委員会に改編し、セクハラとともにパワハラやアカハラに対する防止への取り組みを強化いたします。
- ③情報セキュリティ基本規程を策定し、大学の情報管理体制の構築とセキ

ユリティーポリシー徹底を推進いたします。

④新3号館（教育・研究棟）の建設や新6号館（クラブ練習棟）の工事費の支払いのために、キャッシュフローの管理予測を徹底いたします。

⑤事業目的の実施計画を意識した目的別予算編成を実施いたしました。今後は、事業遂行に際して、PDCAサイクルの活用に取り組んでまいります。

また、費用対効果を踏まえつつ、目的達成に向けた積極的な取組と改善、フィードバックを実施しているかをチェックする体制の構築を検討してまいります。

以上